

コロナ禍における社会の分断 ジェンダー格差に着目して

司会：中谷文美

日本学術会議連携会員・岡山大学文明動態学研究所教授

13:30~13:40

開会挨拶

開会挨拶：柘植あづみ

日本学術会議連携会員

明治学院大学副学長・社会学部教授

企画趣旨説明：白波瀬佐和子

日本学術会議会員

東京大学大学院 人文社会系研究科教授

13:45~14:25

1. 母親就労に着目して

湯澤直美

日本学術会議連携会員

立教大学コミュニティ福祉学部教授

山口慎太郎

東京大学大学院経済学研究科教授

14:25~15:05

2. 家族と医療現場に着目して

筒井淳也

日本学術会議連携会員・立命館大学産業社会学部教授

武藤香織

日本学術会議連携会員・東京大学医科学研究所教授

15:05~15:45

3. 政治・国際動向に着目して

竹中千春

日本学術会議連携会員・立教大学法学部教授

三浦まり

日本学術会議連携会員・上智大学法学部教授

15:55~17:00

フリーディスカッション

(モデレーター：白波瀬佐和子)

討論者：

大沢真理

日本学術会議連携会員・東京大学名誉教授

谷口洋幸

日本学術会議連携会員・青山学院大学法学部教授

日本学術会議 公開シンポジウム お申込 (オンライン開催)

お申込は以下のリンクもしくは
右のQRコードからお願いいたします。

https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_tFRggedDShGtwMPtxadRfA



コロナ禍は、全地球を巻き込んだ社会リスクになりました。しかし、個々人が実際に受けるリスクの中身や程度は、ジェンダー、年齢、国籍、人種といった属性によって大きく異なります。日本においては特にジェンダー格差が大きいこともあり、女性や女の子たちへの影響が深刻であるとみなすべきデータが存在します。そして、コロナ禍は、これまで長きにわたって存在したジェンダー格差を露呈させました。

本シンポジウムでは、学術として何ができるか、何をなすべきかを議論します。具体的には、これまで解決・解消されてこなかった日本の深刻なジェンダー格差について、コロナ禍の現在でこそ原因と解決の糸口までを視野に入れ、検討を試みます。特に、経済学、社会学、政治学等の社会科学の観点から、学術における政策議論の意味を探りたいと考えています。

2021年 9月19日 (日)
13:30~17:00

主催：日本学術会議社会学委員会ジェンダー研究分科会・日本学術会議経済学委員会・日本学術会議政治学委員会・社会学委員会・経済学委員会合同包摂的社会政策に関する多角的検討分科会

後援：東京大学現代日本研究センター



UTokyo
Center for Contemporary
Japanese
Studies

お問い合わせ

東京大学現代日本研究センター事務局

Email: contact@tcjs.u-tokyo.ac.jp